

冠水被害対策を行いましょ



7月27日未明からの大雨による被害対策をするため「7・28大雨農作物被害対策本部」を7月29日に設置し、対策会議を開きました。下記を参考に、今後の生育管理をお願いします。

水稲の管理

■水管理

冠水した稲は、水分を消費しやすくなっています。排水後、出穂開花期まで水を切らさないように管理をしましょう。なお、高温時は、稲体の消耗を抑えるため、積極的な水の入替え（夜間かんがい）をしましょう。

■いもち病防除対策

- (1) 上位葉（止葉含む上位3枚の葉）に葉いもちの発生が見られる場合
晴れ間をみて、ただちに茎葉散布による防除を実施してください。



- (2) 穂いもち防除

ア 予防粒剤で行う場合

・葉いもちを見つけた場合は、茎葉散布を事前に行ってから、予防粒剤を散布をしてください。

→すでに発生した葉いもちに対して、予防粒剤のみでは十分な防除効果が得られません。

・予防粒剤を施用する場合は、ラベル記載の防除時期を逃さないよう注意してください。

イ 茎葉散布で行う場合

「出穂直前」「穂揃い期」の2回が基本です。ただし、次のようなケースでは、前記2回に加えて、穂揃い1週間後にも追加散布を実施してください。

- ・葉いもち（特に上位葉）の発生が目立つ場合
- ・穂ばらみ期以降の低温で出穂の遅れやバラつきが見られる場合
- ・出穂期以降に降雨が連続する場合

※JA管内で、いもち病の発生が確認されています。冠水していない地域でも同様にいもち病防除対策をしましょう。

野菜の管理

■生育管理

圃場表面が乾いたら、畦間の中耕を行うなど土壌中の空気の流通を図り、根の活性化に努めてください。障害の状況に応じて、液肥の葉面散布など追肥を行い、草勢の回復に努めましょう。